

『お知らせ』

ベルカント唱法発表会

先の例会時に石関会員より紹介のあった、日本人に不向きな西洋式（ベルカント）唱法をいかにしたら克服出来るかを実際に実現出来ておられる金岡淳子様にご来場頂き発表して頂くことが、石関様のご尽力により実施出来ることとなりました。

日時・・・八月二十二日（土）午後
場所・・・アビスタ 小ホール
出演者・・・金岡淳子（ソプラノ歌手）
ピアノ伴奏者・・・前田美恵子

概略 右の通りですが、特に歌唱に関心や興味のある方、又合唱団所屬者の方などのご来場を歓迎します。
PRについてはポスターやチラシなどによることは勿論ですが、会員の方々の口コミも必要となります。
皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。



金岡淳子 様です

編集部

『オーディオと私』

今から思うと、私のオーディオへの取り組みは、ほとんどいきあたりばったりで、ここまでできてしまったと思う。

小学校六年のころは、ラジオで聴いた外国のポップスを、わけのわからぬ英語で口ずさみ、おじさんからもらったブレーヤをラジオにつないで聴いていた。

今から思うと、このころ聴いた音楽が、個人的な性格かもしれないが、五分以内で、起承転結する手軽な音楽にはまっていくきっかけだったのかもしれない。クラシック音楽は、音楽、オーディオとして、まったく問題ないが、どうしてもじっくり聴かないと曲の途中になってしまうので、月いち程度になってしまふ。まあとにかく、今は音楽をかけて一、二曲聴くと、別な事をやって、ステレオだけが寂し鳴っている。

でもオーディオファンクラブでは、一時間あまりじっくりと聴くので、いろいろな方向で音楽を楽しめるので、有意義な時間をすごさせていただいている。
さて話を元に戻そう。このころ音について興味を持ち始めた。友達の家のステレオ聴いて、音楽でなくいい音として聴いたのを覚えている。

中学生のころの、音楽に関する記憶がない。オーディオのスタートは工業高校に入学してからとなる。アルバイトでコツコツためて、興味がある人しか解らないと思うが、7189PMPによるステレオアンプの自作、なぜ作ったのか記憶は定かではないが、周りにアマチュア無線とかオーディオアンプの、自作派がいたせいだと思ふ。でもこれから音が出るまで、ひと苦労。アルバイトの全財産を使っても、アンプを作ったのだから、アンプしかないのである。次はスピーカー、パイオニアのPAX-20Fを一個だけ購入。なぜ、一個なのかと思ふかもしれないが、お金が二個分貯まるまで待てなかつたのだと思ふ。ところがステレオとなる二個目のスピーカーを、コーラルの12TX-50購入、何を考えているのやら。だがまだ、箱がない。もった板で材料が足りないの、上下に入れて聴いていたのを記憶している。ステレオとして完成したのは、専門学校に入ってからだった。このころは音楽を聴くというよりは、何かに取り付かれていたような感じだったと思う。完成した音といえば、12TX-50は、周波数特性は立派だったが、出てきた音は、中抜けのよくない音と記憶している。

またここで、数年以上の音楽、オーディオに関する確かな記憶がない。それなりに聴いていたと思ふが、がんばった結果があまりのひびきに失望したのだと思ふ。

数年後、そしてまた目覚めたように、JBLのLE-8Tをマウントした、SP、LE-8TとティアックのA-6010を、サラリーマンでコツコツ貯めた貯金をはたいて購入し、オーディオの泥沼に突入。このときの音は、とても満足していたのを覚えている。でもこれと同時に問題も発生した。騒音問題だ。この問題には一〇年くらい悩まされる。どうしても音がよくなってくると、それなりの音量で聴きたくなる。アパート暮らしの私にとつて、遠慮がちに聞いていたのだが、苦情が来た。苦情と戦い？（自分勝手な言い方ですが）LE-8Tとの楽しいときをすこす。

そしていよいよ、三〇歳を過ぎたころ、マイホームをたて、一〇畳程度のリスニングルームを作った。夢のリスニングルーム（当時はオーディオルームとは言わない）が完成した。騒音問題から開放され、のびのびと聴くと、各機器の限界が見えてくる。そんな折、部品購入で行った秋葉原で、やはり気になるので、オーディオショップを覗いた。それが心の中でモヤモヤしていたものに火をつけた。JBL4343との衝撃的な出会いである。

そのころは、雑誌を見ては、JBLのモニターシリーズあこがれていて、4320（2ウェイモニター）出来れば4333（3ウェイモニター）などと夢を見ていたもので、4343を購入するなどは、夢にも思わなかつた。ショップで聴いた音は、我が家では逆立ちしても味あえないほどの衝撃だった。それが良くない事に、私のわけのわからないスイッチ押してしまった。

こうなるとう誰にも止められない。今でも愛用している、JBL4343を我がリスニングルームに向かい入れることとなった。

ここまでくると、自作に限界を感じ、数年かけてアンプを購入した。あーあ、オーディオとは、なんと罪深いものよ……。その後オーディオは、コツコツと計画的に進めるのではなく、突然に目覚める感情に、流されてきて、現状に至っている。

現在も愛用している4343は、マルチアンプで鳴っている。マルチアンプで鳴らす予定などもとなく、成ってしまったのが現状である。

4年前、我が人生の集大成として、今のオーディオルームをミリムリ確保した。システムの再構築ということで、いろいろと聴いて廻ったが、スピーカーだけは4343を変えさせる気を起こす様なものはなかつた。そして集大成の音……。まあーガツカリ。
でも何故それがマルチアンプに。それは私にもよく解らない。ただ、昨年四月の調整を最後に、我がシステムが心地よい時をくれるのだから、良しとしよう。

新田 不二雄



写真は同氏のリスニングルームとご愛用のマルチアンプ